

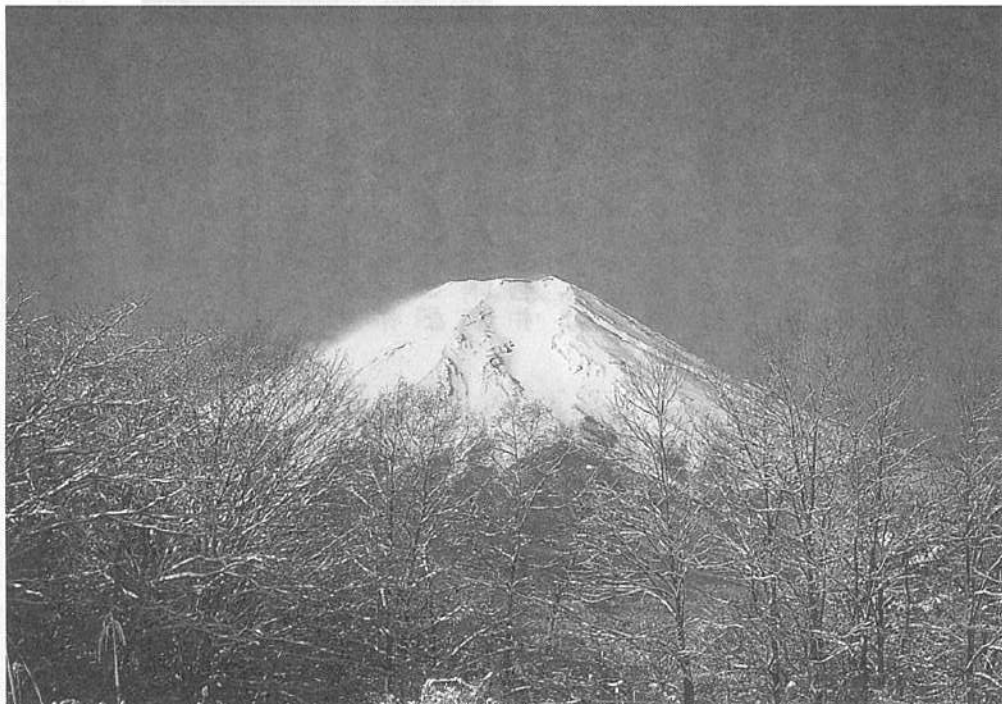
寺報 善 巧

発行
〒938-0862 富山県
下新川郡宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
TEL (0765) 65-0055
FAX (0765) 65-0975
メール zengyou@box.email.ne.jp

賀春
生かされて
生きるよろこび
春迎う

ご正忌
一三日 一時
一四日 一時
一五日 十一時 下村お講
一六日 十一時 浦山・栃
屋・熊野・大橋お講
一時 ご満座
ご講師 中西昌弘師

寺
ごよみ
一月
一日 修正会
三日 日校かるた会
六日 栗虫報恩講
七日 花の会新年会
一日 一忌忌用米とき
一二日 一忌忌お華束準備
日校成人式



開沢かよ子さん（黒部市柕沢）撮影

昔、黒田の殿様が、正月の初夢に「一富士、二鷹、三なすび」の夢を見ました。この三つはめでたい吉夢といわれています。今年ほめでたい年になるぞと喜んで画家にたのんで富士山に鷹が飛んでいる下になすびの花をえがかせてみた。さらに殿様は、この絵画に何かよい言葉がほしいと、博多の名僧仙崖和尚に賛文を書いてもらいました。和尚は絵画をみて賛をかきました。

「夢は、夢じゃ」と。

○ ○

夢といえば新聞に次のような話がのっていました。

夢の中で白い服をきた人が、

「あなたの苦しみや悩みをとりぞいてあげます。お金もあげます」といってお金をおいて去っていききました。苦しみや悩みをのぞいて金までくれるとは何と世の中にはありがたい人がいるものだと思ってお金をもらいましたが、

夢のお話

しばらくすると苦しみや悩みがなくなってお金までもらったのに少しも嬉しくありません。幸せな喜びもでてこないのです。どうしたことかと思っていたら白い服の人があらわれて、

「あなたの苦しみや悩みをとりぞいてあげましたが、実はそれは喜びや幸せとセットしてあります。わかりましたか」

夢からさめて彼はなるほどと合点したというお話。

人生は禍福相對の世界で、禍いと幸福とは一枚の紙の裏表のようにセットになっているのです。私どもは、つねに禍いや苦悩をのがれて幸福をもとめて生きていますが、それは一枚の紙の表だけほしい、裏はいらないというにひとしいのです。

み仏さまのみ教えは、人生の禍福の実相を照らして禍福をこえていく道なのでした。

本願寺派司教

高田 慈昭 和上



空華忌講話

(平成十二年)

本願寺派勸学

梯實圓和上 (最終回)



先に申しましたように、他力を詠った、引く足も 称ふる口もおがむ手も 弥陀願力の不思議なりけりという歌で、「引く足」につづいて、「称ふる口もおがむ手も」といわれていますが、「称ふる口」というのは、お念仏のことです。南無阿弥陀仏という声がない

かなかそう簡単にはできるもんじゃございませぬ。このあたりは昔からのご法義どころです。から、長い間のお育てがありますから、念仏がすいすいと出てくたさるかもしれません。しかしそれは長い長いお育てのお陰ですよ。ご法義のないところで育った者は、南無阿弥陀仏という六字が、なかなか称えられないのです。言葉は知っています、口にはでない。念仏は易行であるから、誰でも称えられるといえますけれども、そんな簡単なものではありません。

りない智慧の光をもつて生きとし生けるすべてのものをさとの世界(浄土)へと導き、すべてのものに限りない「いのち」の目覚めを与えていく「いのち」の親がいるんだよ、この親の本願力にまかせて浄土へ生まれてきてくれよと、私どもに親の名乗りを上げ、救いを呼びかけていてくださる如来さまのお呼び声であるといわれています。その如来さまのご説法が、今私どもの口に現れ出ている南無阿弥陀仏であると親鸞聖人は教えてくださいました。

そうしますと念仏は、私の行いではなくて、私どもに救いを告げる如来さまのお言葉が私の口について現れ出ていることとなります。これは大変なことですよ。私が勝手に称えているというような安直なものではなかったのです。ですから、如来さまが、たとえ一声でも、十声であつても南無阿弥陀仏と称えてくれと仰せられているのは、その声を聞か

せて、阿弥陀さまの救いを私どもに知らせたかったからです。

お念仏は、私の働きではないんです。如来さまの本願の働き、つまり本願力が私の上に現れ出ている姿であるといえます。本願力なくして一声の念仏も口にでるわけがないんです。そしたら一声でもお念仏がでてくださいていることは、私を念仏の衆生に仕上げて救おうとされる如来さまの願力が、私の上で花を開かせている姿であるといいたくべきです。その意味で、阿弥陀さまってどこにいらっしゃるんですか、といわれたら、「なんまんだぶ、なんまんだぶ」、ここにいらっしゃるのです。「なんまんだぶ、なんまんだぶ」と一声一声お念仏となつて私を揺り動かしている、私を念仏の衆生に仕上げてくれる如来さまがここにいらっしゃるのです。そのような本願の念仏を私の行であると思ひ、

私の甲斐性で称えていると思うから如来さまに遇えないのです。

そのことが解れば、念仏しているが、お浄土へ生まれるかどうかかわからないというようなことは言えなくなります。そんな疑いを持つのは、念仏するのは私の仕事で、お浄土へ連れて行くのは如来さまのお仕事であるというように分けて考えているからです。私を念仏の衆生に育てあげた本願力が、私を浄土に生まれさせてくださるのです。

念仏させている力と、浄土に生まれさせる力とは全くおなじ力であつて、それを本願他力というのです。

先に申しましたようにお寺へ参ろうとして歩く足どりに仏さまの力を感じ、称える口に如来の本願力の躍動を感じる人なら、そこで仏さまに出会っているのです。それを「弥陀願力の不思議」といわれたのです。み教えを聞くことを楽しみ、本願のみ言葉を疑いなく受

け容れ、仰せに順って念仏している姿こそ、如来さまの本願の秩序に従って生きている、まことの佛弟子の姿であるといわねばなりません。

さて「引く足、称ふる口」の次に、「おがむ手」といわれています。仏さまの前で両手を合わせて合掌することです。しかし合掌にもいろいろあります。私どもは何か自分に都合の良いことをお願いするときには、神さまであれ、仏さまであれ、人であれ、どんな者にも合掌しますが、それは相手を敬っているのではなくて、利用しようとしているのですから、合掌も我欲の表現でしかありません。拝み倒しです。私どもの合掌はまずそれです。如来さまだけが真実であること知り、如来さまだけが万人に敬われ尊ばれるべき方であると知って、敬虔な合掌・礼拝を如来さまにささげるというような殊勝な合掌はまずありません。浅ましい

愛憎の煩惱に明け暮れている煩惱具足の私には、如来を拝むすべきえ知らないのです。そんな私を、念仏の衆生に育てあげ、尊ぶべきは如来さまであり、仰ぐべきはみ教えであると教え、如来さまを合掌し礼拝するような者に私を育ててくださったのは紛れもない本願力のお働きでした。そう気づくとき、拝むわが手に、我ならぬ大きな本願力を感じるのです。それを「おがむ手も、弥陀願力の不思議なり

けり」といわれたのでした。こうして「引く足、称ふる口、おがむ手」、それはみな私がやっていることだといえ、それに違いありません。しかし煩惱具足の私からは決して出てこないはずの聖なる行為であると気づき、すべては私を超えた大きな如来さまの本願力の「自ずから然らしめたまう」みわざであつたと領解すること、親鸞聖人は「他力不思議」とか「自然法爾」といわれたのでした。(完)

book

本

赤いバラは赤いまま

—弥陀のメッセージをあなたに—

雪山 隆弘 著

本願寺出版社刊 本体1000円

がんで12年前に亡くなった著者が、本紙コラム「赤光白光」欄に1985年4月から5年間にわたり執筆した中から、よりすぐりの52編をまとめたもの。産経新聞社で第一線の記者として活躍していた著者

が、退職後の寺院活動に携わる中から書いた、ご法義豊かな文章は、テンポもよく気持ちよく読める。表紙や本文中の挿絵は、著者が知人や家族に絵はがきとして描いたもの。

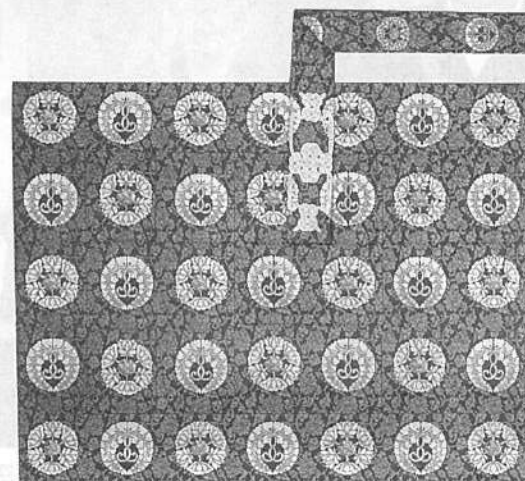
「赤いバラは赤いまま 白いバラは白いまま みんな光り輝いている」という、阿弥陀経の「赤色赤光白色白光」を味わった、筆者のメッセージからタイトルが付けられた。サブタイトルの「弥陀のメッセージをあなたに」は、新聞社を退社して得度式を受けて以来、自らのキャッチコピーとしていたもの。

本編最後の「合点じゃ いつなりと吹け 秋の風」は、著者の絶筆。闘病中に先に亡くなった実父の死を通し、「お互いまた、行きやすくなったなあ。今度はオヤジが待っていてくれるんだからなあ」「よかった、よかった。安心したよ」と兄と交わした言葉は、死を避けて、もがく私たちの心を豊かにしてくれる。ことしは阿弥陀さまのメッセージを残してくれた筆者の13回忌である。(本願寺新報より)



冬用小五条

ご寄進



蓮如上人五百回遠忌法要記念五条

魚津市出の山根駒義さん

空 華 忌

11 / 4 ~ 5

明教院僧鎔師の二百二十回忌が勤修されました。本堂は一月ごろの厳寒でしたが、行信教校長の懇切なご法話に心が温まりました。

釈俊之七回忌 釈隆弘十三回忌

11 / 5

空華忌に引き続き両住職の回忌法要が勤まりました。男先生のご縁で若者達のお参りする姿が印象的でした。また、広島からお同行が駆けつけてくださり、出身地の浦山新の門徒さんと旧交を温めるシーンが見られました。



厳寒の本堂に老若男女



椅子席が多くなりました



常見寺前坊守と広島(浦山新出身)からの大瀬戸さんを囲んで



利井明弘師



2002/11/ 5

利井校長先生と空華忌出勤の方々

報恩講

10/19、20

親鸞聖人のお徳を偲ぶ報恩講が十月十九、二十日の両日勤修されました。

今年は教化部からの提案で、浦山新の門徒さんの作品が展示されました。その作品というのは、なんと、

おぼけかぼちゃ。本堂前に巨大かぼちゃたちがずらつと並んだ光景にはすさまじ



でっかいかぼちゃたち



法話に聞き入るお同行

いものが……。最大が百五十一キロで、四国で行われた全国大会では十一位とか。珍しいだけでなく、重量当てクイズもあって、農業経験者は大いにハッスル。投票箱に何枚も入れる方もあるくらい熱のいれようで、結局一等賞を獲得したのは浦山の農業ベテランの女性でした。

参拝旅行 妙好人を訪ねて

9/26、28



源左さん

福井千福寺さんのお誘いで、鳥取の源左同行と島根の才一同行のお寺を訪ねました。他県のお寺との合同旅行は珍しく、良い刺激を受けて愉快地楽しく過ごし最後は涙のお別れでした。

若はん（前住職隆弘）は私共によく源左さんや才一さんの話をしてくれ、寺に居る間だけでも、その真似をしようと言われていました。あれから二十五年。念願かなって、ついに源左さんに会えました。うれしい限りです。ようこそ、ようこそ。参加者 八木秀雄



若がえつたほんこさん

今回のほんこさんは写真の通り若手トリオでお参り。善巧寺住職二十九才、法輪寺若院三十八才、照行寺若院三十九才。平均年齢三十五才。写真は百軒近い音沢地区のほんこさんを終えたばかり。まだまだベテランのようにはいきませんが、どうか温かく見守ってください。

もう一つ若くなったのは車です。廃車になったのは前住職も乗ったことがある十三年目のローレル。走行十六万キロ、ほんとにご恩報車でした。新しい車はマツダのアテンザ。これから善巧寺公用車としてがんばってくれることでしょう。



照行寺神子巧照、善巧寺雪山俊隆、法輪寺高島康彦

松昭春(母・10・30)橋場豊治
(11・7)高島彦丸(12・5)新
保隆夫(母・12・12)東狐与四
正(12・19)佐々木清太郎(12・
25)

三十三回忌 (昭和四十六年往生)

本波秀三(母・1・13)谷川繁
夫(母・2・3)佐々木盛二
(2・6)中坂与一(母・2・28)
開沢宗作(3・5)川内七之
助(母・3・15)新保助次郎
(3・23)丸田守孝(長女・4・
3)佐々木次郎助(妻・4・7)
川内明男(長男・4・10)有馬
国男(母・4・20)野村虎太
(4・23)中村春男(5・4)根
岸俊治(6・28)山内健二(母・
7・4)大島清一(母・7・6)
川内明男(妻・7・7)中村新
四郎(母・7・7)佐々木宗太
郎(孫・7・17)川内周作(8・
14)佐々木八郎(妻・8・21)
鬼原勇吉(8・24)板久雄(母・
9・3)中坂幸作(9・4)沢
田幸男(母・11・3)山本浅次
郎(妻・11・12)東狐義之(長
女・11・15)沢木金治(妻・11・
30)佐々木勝信(母・12・13)

五十回忌 (昭和二十九年往生)

佐々木石松(母・1・6)佐々
木外一(三女・1・6)野崎邦
宏(二男・1・22)佐々木七蔵
(母・2・20)佐々木林(二男・
2・21)板川精一(3・6)佐々
木幸次郎(3・7)島田幸次
郎(妻・3・11)大島吉郎(母・
3・17)板川徳次郎(4・2)
本波慶太郎(妻・4・10)西中
市三郎(孫・5・14)福沢作次
郎(姉・6・2)大藪六石工門
(孫・6・25)谷口源太郎(長
男・6・27)佐々木文作(妻・
7・4)河村宗作(長男・7・
12)鬼原亀次郎(五男・7・19)
清水栄次郎(妻・8・9)上坂
長造(三男・8・10)佐々木虎
次郎(8・10)川内七之助(8・
16)野村松之助(9・15)中村
幸作(妻・11・20)佐々木音松
(12・21)川瀬長次郎(12・27)



教化部 コーナー

誰にも「大空を飛びたい」という想いはあると思う。それを実行している人が黒部市栃沢の丸田信夫さん。ビデオでモーターパラグライダーの様子を見せてもらった。黒部川流域の上空から撮った映像は本当に鳥になったよう。

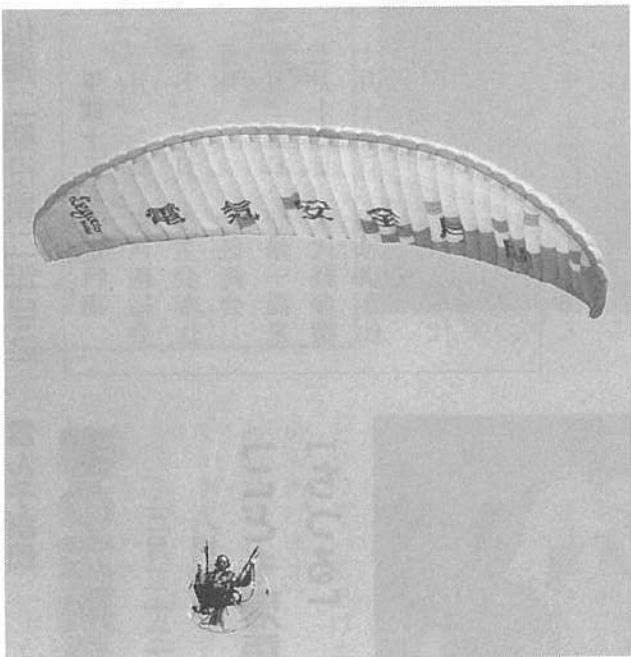
二百二十二メートルの深層水(アルカリイオン水)を



丸田信夫さん

宝石の水といって全国に送っているがまだ採算がとれないと言われる。が、夢は大きい。環日本海の国々の人々に飲んでもらいたいという夢だ。その深層水は二千百三十八年前の水、黒部深層水とか。まさに古代の水だ。「鳥になる風になる」と、語る丸田さんに男のロマンを感じた。

(Y)



寺 こよみ

二月

一日 浦山お講

六日 三日月報恩講

一四日 生地・荻生報恩講

一六日 下立お講

一七日 下立報恩講
間法会

一八日 下立報恩講

二〇日 入善報恩講

二二日 舟見報恩講

二六日 析屋報恩講

二七日 熊野報恩講

三月

一日 浦山お講

三日 浦山報恩講

九日 黒西組仏婦総会

一六日 析沢お講

一七日 間法会

二三日 雪ん子劇団
春の定期公演

ご正忌報恩講

一月十三日 午後一時

十四日 午後一時

十五日 午前十一時 下村お講

午後一時

午後七時 初夜

十六日 午前十一時 お講

(浦山・栃屋・熊野・大橋)
午後一時 ご満座



ご講師(十五日・十六日)
行信教校講師
中西昌弘師

十三日・十四日は当山住職副住職です

今年も豪華なご講師陣!!

仏婦研修会 那須野 浄 英師

永代 経 高 務 哲 量 師

報恩 講 梯 宗 崎 秀 一 師

空華 忌 高 田 慈 昭 師

めったに聞けるものではありません。
是非どうぞ!

仏婦二期役員二年目に

平成十五年予定行事

三月 九日 黒西組総会

四月二十日 誕生会奉仕

五月 教区総会

七月 五日 研修+温泉

七月十六日 永代経参詣

十月十九日 報恩講奉仕

十一月二日 空華忌奉仕

総 会

未定

*今年は次期担当者(浦山・
栃沢)の見習いの年です。

*会費五百円のご協力をお願いします。お講以外の
方の賛助費も歓迎です。

お寺に遊びに来ませんか? ちょっと仏法聞きませんか? — 例会強化年間 —

お 講

●毎月一日、十六日午前十一時

●仏典アニメ、おつとめ、当番
特製一〇〇円の精進料理!

●午後のお説教は今年のテーマ
「歎異抄」です。

聞法会

●毎月十七日午後七時半

●ご講師..高務哲量師

●講 題..高僧和讃

●受講料..一〇〇〇円

初めての方も是非一度おまいりください

雪ん子劇団

春の定期公演

三月二十三日午後

入場無料

「こども落語」

「ちづる」



合 掌

平成十四年の主なできごと

二月 野畑一雄責任役員逝

去

四月 住職帰院、本願寺派

特別法務員に登録

五月 善巧寺長女有花結婚

六月 責任役員に野島義春

氏就任

八月 仏婦初めての研修会

雪ん子高田派婦人会

から招待され三重県

文化会館で熱演

十一月 釈俊之七回忌、釈

隆弘十三回忌勤まる

雪山隆弘著『赤いバ

ラは赤いまま』本願

寺出版社から発行

一面の俳句は前坊守の作
です。ご心配をおかけしま
したが退院後の経過もよく、
以前のようにお寺参りの受
付などもしております。色々
と有り難うございました。

